

登録コード	E2012900	開講年度	2026				
授業科目	古典文学講読					担当教員	石塚 修
英文授業名	Reading of the Japanese Classics Literature					副担当	
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	3・4年
講義室	教育M301 講義室		授業形態	講義	遠隔授業科目	備考	
信大コンピテンシー該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	【授業の達成目標】	
	26Eカリ, 25Eカリ, 24Eカリ, 23Eカリ, 22Eカリ, 21Eカリ, 20Eカリ						
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				⇔		
(2)授業で学べる「テーマ」	芸術文化、環境共生、多文化協働						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	高等学校の古文教材として確たる地位を築いている『伊勢物語』。その教材研究は、さまざまに行われている。そうした中で教材としての目的や学習内容を明確にしておくことが、新しい学習指導要領の実現において必須である。そのため、従来の文学研究の成果のみならず、言語文化としての伊勢物語を教材化するための方法知や従来の研究成果を応用した教材研究の在り方について、具体的な教材を取り上げて検討しながら、新たな教材研究の在り方を理解する。						
(5)授業計画	担当教員が中等教育の実務経験を活かして講義します。 第1回：『伊勢物語』の文学史的位置づけと概説（成立、作者、諸本等） 第2回：初冠（1段） 第3回：東下り①（9段：散文表現の分析） 第4回：東下り②（9段：韻文表現の分析） 第5回：筒井筒（23段：散文表現の分析） 第6回：筒井筒（23段：韻文表現の分析） 第7回：月やあらぬ（4段） 第8回：芥川（6段） 第9回：梓弓（24段） 第10回：狩の使い（69段：伊勢斎宮訪問） 第11回：狩の使い（69段：一夜の逢瀬） 第12回：さらぬ別れ（84段） 第13回：渚の院①（82段：散文表現の分析） 第14回：渚の院②（82段：韻文表現の分析）、授業アンケート						
(6)成績評価の方法	■成績評価の考え方は、以下の通りである。 ・授業の達成目標1の文学史的な教材観を測る毎回の教材研究に対する到達度を測る振り返り作成 15点 ・授業の達成目標1の教材に関する特徴理解に対する到達度を測る中間評価レポート 30点（レポート概要：受講生各自の興味関心に応じて、取り上げた章段から1つ選び、評価問題を作成する） ・授業の達成目標1の新たな教材研究に対する到達度を測る最終評価レポート 40点（レポート概要：授業で取り上げなかった章段を用いて評価問題を作成する） ・授業の達成目標1の文学史的な観点を総合的に位置づける学習目的・学習内容に対する到達度を測る最終レポート 15点（レポート概要：物語文学史における『伊勢物語』と教材研究のあり方） ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。						
(7)成績評価の基準	秀：授業内容をきわめて高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探究姿勢をもって課題演習・実技課題等に取り組み、高度な活動成果を示している。 優：授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題演習・実技課題等に取り組み、良好な活動成果を示している。 良：授業内容のおおよそを理解し、講義内容を理解するとともに、与えられた課題演習・実技課題等に誠実に取り組み、授業ねらいで求める活動成果の三分の一程度の達成が認められる。 可：授業内容の一部を理解するとともに、与えられた課題演習・実技課題の一部は誠実に取り組み、部分的に努力の認められる活動成果を示している。 不可：授業出席以外は可とすべき内容を満たさない。						
(8)事前事後学習の内容	事前学習：次回授業で取り上げる章段を事前に読み、内容を理解して課題を設定する。 事後学習：取り上げた章段の内容を振り返り、解釈で問題となった表現について再吟味する。 ※この授業は90時間の学修を必要とする内容である。したがって、60時間以上の時間外学習が必要となる。						
(9)履修上の注意	基本的な文学史の知識、文法事項などの学習を済ませておくことが求められる。また事前に取り上げる章段を読むことが必要となる。						
(10)質問、相談への対応及び連絡先	原則的に授業時に直接おこなうことが望ましい。個人的な相談・質問の場合はメールにて。また、オフィスアワーを利用してもよい。対応可能な場合は、その他の時間でも可。 研究室：中校舎4F 408 内線番号：4072 アドレス：nishika@shinshu-u.ac.jp						
【教科書】	取り上げる章段の複数教科書を事前に配布する。						
【参考文献】	西一夫：『伊勢物語』教材研究―第9段「東下り」の和歌解釈を中心に―, 人文科教育研究VOL.33, 2006						

【参考文献】	西一夫：古典教育における『伊勢物語』作品研究―第84段「さらぬ別れ」の表現分析―,人文科教育研究VOL.34,2007 小松英雄：伊勢物語の表現を掘り起こす―《あづまくだり》の起承転結,笠間書院,2010 西一夫：『伊勢物語』教材研究―「初冠」試解―,信州国語教育VOL.82,2011 鈴木日出男：伊勢物語評解：筑摩書房,2013 西一夫・鎌倉大和：教材として『伊勢物語』を読む―「芥川」（第6段）の表現分析―,人文科教育研究VOL.44,2017 西一夫：『伊勢物語』の情愛―「梓弓」散文部の表現分析―,研究紀要VOL.12,2017 山口佳紀：伊勢物語を読み解く―表現分析に基づく新解釈の試み,三省堂,2018 西一夫：（書評）山口佳紀：伊勢物語を読み解く―表現分析に基づく新解釈の試み,図書新聞VOL.3354,2018 早稲田久喜の会編：伊勢物語（学びを深めるヒントシリーズ）,明治書院,2018 西一夫：「東下り」の段落構成―教材化研究の一齣―,信大国語教育VOL.29,2019 西一夫・澤田浩文・戸塚拓也：旅情―『伊勢物語』「東下り」の教材化・導論―,信大国語教育VOL.30,2021 西一夫：川辺の景と情―『伊勢物語』「東下り」教材化への視点―,月刊国語教育研究VOL.612,2023
--------	---